

志免町議会一般会議 報告書

団体名	志免町障害者団体連絡協議会 「こころのまど」	住民の参加人数	男性 2 人・女性 4 人・合計 6 人
月 日	25年8月28日(水曜)	会場	第1第2委員会室
開始時間	1 4 時	終了時間	1 6 時

テ ー マ	<p>「志免町における障がい者福祉の現状と課題」</p> <p>* 発達障がい児の自立を支援する会「すてっぷくらぶ」 平尾やす子（こころのまど会長）・西口忍</p> <p>* 瞳の会 伴芳子</p> <p>* 障害のある子もない子と共に演劇を [劇団きらきら] 田中靖子</p> <p>* ツモロー会 吉村美枝子</p> <p>* 志免町身体障害者福祉協会 野口道清</p> <p>* 志免町社会福祉協議会 宿利幸央</p>
内 容	<p>厚生建設委員のアイマスク体験（役場内）</p> <p>①アイマスク体験を通じて。 ②働く場所の課題について。 ③年代別の課題について。 ④居場所について。 ⑤身体障害者団体への加入促進、周知について。</p>
質 疑 応 答	<p>①アイマスク体験を通じて （二人一組になり、片方がアイマスクをし、白杖を持って、合い方が道案内をする。階段の上り下り、トイレの使用等の体験をとうして、階段の上り下りは一段目が危険。トイレのウォシュレットの操作に点字がないので操作ができない）</p> <p>「点字ブロック・表示・音響信号等バリアフリーの充実。当事者の意見をよく取り入れていただきたい。成人になっての糖尿病・緑内障・網膜はく離等で失明する方が増加している、他人事ではない。瞳の会はスポーツ・文化芸術等にも積極的に参加し活動している。学校で障がい者を理解してもらうために出前事業を行っている。弱視・失明で家庭に閉じこもっている方等に会の活動を紹介してほしい。</p> <p>答弁・当事者の意見を取り入れたのバリアフリーの充実。健康予防の中で失明の予防対策を推進していく。</p> <p>②働く場所の課題について 「志免町には障がい者の働く所がない。障がい者も一般社会で生きていかなければならないので、健常者と一緒になれる所がほしい。」</p> <p>答弁・この件については長年の課題であり、障がい者の就労支援という事で、委員会としても長く議論をしている。商工会・企業・関係団体との講習会・情報交換を提案し行ったが、継続的に推進していく。また、3町の広域行政特別委員会でも議論してもらう。</p> <p>③年代別の課題について 「特別支援学級から普通クラスに移行する（ボーダーライン児）への配慮が足りない。2年生と3年生では学習内容や容量が多くなりその壁が大きい。障がい児にとっては何をしたいか分からなくなる。中学になればもっと手薄になっている。</p> <p>答弁・総務文教委員会も関連する事であり、委員会でも再検討してもらうよう提案する。</p> <p>④居場所について 「リリーフ」のような施設で成人の居場所が出来ないのか。 PK2は小学2年生までだが3年生から高校生までに拡大してほしい。</p> <p>答弁・放課後デイサービスは法律でも18歳までとなっているので、現在委員会としても少しでも拡大するよう努力をしている。</p> <p>⑤身体障害者団体への加入促進、周知について 宇美町の協会が休止となったので、志免町に入会できないのかと相談があつている。 福祉バス利用が抽選となり、予定が立てられず困っている。</p> <p>答弁・持ち帰って担当課と協議・検討する。</p>

意見
・
提言

*今日まで健康予防を議論する中で、失明に対しての対策を議論した事がない。成人になって失明の原因となる病気をとうしての健康予防を委員会と健康課として周知徹底する必要がある。

*PK/PK2・小・中・校を通じたのトータルコーディネート(療育、放課後等の居場所両面)の必要性。PK2の拡大が急務である。

*最大の課題として町を上げての就労支援の緊急性。

*「学童保育」や「リリース」のような施設での居場所作りの必要性。(小学生から成人まで)

*今回の一般会議をとうして、現場の声を聴き、情報を共有する事が出来た。これまで以上に委員会で審議していく。